

日本語の進歩が実感できる簡単な評価の方法を

8月10日

読む、聞く、書くなどの評価法について、7月のミーティングでの意見を受けて修正した点、そして、前回のミーティング後に雨宮先生より示された見本を参考に改善した点を発表した。

**岩佐：聞く力（読み聞かせ）**

- ・ 評価と次の活動が好循環となるサイクルが作られていくこと、そして、シンプルに評価でき、評価結果が分かりやすいことをねらいとしている。
- ・ 自己評価で、「楽しい」という文末について、題材が悲しいお話の場合にそぐわないのでは、また、選択してチェックをつける回答方式のほかに、記述して回答する問題があり、聞く力の評価に書く力の要素が必要とされること等について意見があった。

**井原：話す（発表）**

- ・ 高等部の生徒対象の評価法シートで、発表の内容、内容の構成、話し方、表現の4項目を設け、で3段階の評価基準が示されている。

**宮崎：書く力（作文）**

- ・ 前回、1のレベルの基準について、「出来ていない」といったようなマイナス面の表現を訂正した。
- ・ 同様に文言等、前回より見直し、5段階で評価基準の違いを明らかにした。

**岡部：話す力・読む力（音読）**

- ・ 音読について、知識・技能で4項目、思考・判断・表現で1項目の評価規準を3段階で評価するシートを作成している。
- ・ 「おおむね」という言葉について、どの程度をおおむねととらえていいのか判断が難しいのでは意見があった。

次回9月は、研究委員以外にも、評価に関心のある先生方が評価部会のルームに入り、今回のミーティングでのコメント等を受け、手を加えたシート内容の提案を聞いて頂くことになる。世界各地の補習校で様々なバックグラウンドや日本語能力の児童生徒の教育に携わっている現職教員ならではの視点からの意見や感想を聞くことは、シートの精度を上げることが期待できる。

学習指導要領（国語）に、各学年のそれぞれの力の目標が示されている。また、シート内の文言等も、学習指導要領で使用されている文言が参考となる。

次回までに修正・改善したシートを padlet にアップし、9月の研究会に備えたい。